

やんばる：希少な生物多様性の環境

やんばるは沖縄本島の最北端にある地域です。その名前は伝統的に「山と森」を意味する漢字で書かれます。やんばるの内陸部は低いながらも険しい山々からなっており、その約 80 パーセントは緑豊かな亜熱帯の森に覆われています。やんばるのような規模の森林は、この北緯 27 度付近（リビア砂漠、メキシコ北部、インド北西部と同緯度）では世界的にもまれです。フィリピンから北上する暖かい黒潮と季節風の影響により、この地域には常緑広葉樹林が繁茂しています。これらの要因が重なり、山岳地帯に豊富な降雨をもたらす雲が形成されています。

南北に 32 キロメートル、東西に 12 キロメートル広がるやんばるは、島の他の島に比べて比較的未開発です。それほど大きなものではありませんが、やんばるには驚くほど多様な野生動物が生息しています。やんばる地域は日本の総面積のわずか 0.1%にすぎませんが、日本の鳥類種の半分と在来種のカエル種の 4 分の 1 がここに生息しています。遠い昔に琉球列島がアジア大陸および日本本土から分離されていたことより、絶滅危惧種のヤンバルクイナ（日本唯一の飛べない鳥）やノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネなど、多くの固有種が独自の発達の道を辿ることになりました。

やんばるの鬱蒼とした森には、そびえ立つイタジイ(*Castanopsis sieboldii*)の木、珍しいシダ植物、繊細なランなど、幅広い種類の植物が生息しています。東海岸のマングロー

ブ林は、さまざまな海洋種や植物種をサポートするとともに、海岸環境の健全性を維持する上で重要な役割を果たしています。この豊かな生物多様性により、やんばるは保全活動における重要な保護区であり、そのユニークな生態系の探索に興味を持つ自然愛好家にとっての楽園となっています。